

住まいのニュース

2023

11

vol.156

今月の特集

家庭の防災対策

災害に備えることは、家庭の安全と快適さを守るために重要です。しかし、多くの人は、防災対策について十分な知識や準備がないと感じているかもしれません。そこで、この記事では、家庭でできる防災対策について紹介します。

万が一にも慌てない 事前の備えが重要

11月は気温が下がり、乾燥や強風などの気象条件が災害の発生を引き起こしやすくなる時期です。地震や火災、洪水などの自然災害による緊急事態に備えて、一人ひとりが防災意識を高めて、必要な備えを整えましょう。

まず、防災対策の基本は、非常用持ち出し袋や非常食などの備蓄品を用意することです。備蓄品の内容や量は、家族の人数や健康状態、住んでいる地域の災害リスクなどに応じて調整しましょう。また、備蓄品は定期的に点検や入れ替えを行うことが大切です。

次に、防災対策の具体的な方法として、家具や家電などの落下防止や固定を行うことが挙げられます。地震や台風などの強い揺れで家具が倒れたりすると、人に怪我をさせたり火災を引き起こしたりする危険があります。そこで、家具や家電は壁や床にしっかり固定したり、落下防止用のベルトやフックなどを取り付けたりしましょう。また、窓ガラスは割れ防止フィルムを貼ったり、カーテンを閉めたりして飛散を防ぎましょう。

災害時には、電話回線が混雑したり、通信が途絶えたりする可能性があるため、家族や友人と安否確認の手

段や待ち合わせ場所などを事前に決めておくことが重要です。災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などのサービスを活用することで、自分の状況や連絡先を伝えたり、他の人の安否を確認したりすることができます。

住まいの防災は 高い住宅性能から

最後に、高い住宅性能を持つ住宅を選ぶことも、防災対策の一つです。高い住宅性能を持つ住宅は、地震や台風などの自然災害に対して強く安全だけでなく、断熱性や気密性も高く快適な住環境を提供します。地震・火災、大津波などの災害に対して高い耐久性を持つ「FPの家」は、FP軸組工法という独自の技術を用いています。

この工法では、木枠と硬質ウレタンフォームを一体化させた「FPウレタン断熱パネル」を建物の骨組みとして使用し、壁面に隙間ができないように組み立てます。このようにすることで、壁自体が強固な構造となり、地震や風圧にも耐えられるようになります。さらに、「FPウレタン断熱パネル」は、空気や酸素が入り込まないため、火災にも強い特徴を持っています。ウレタンが直接燃えて有害なガスを出したり、壁内で火が燃え広がりにくい構造になっています。

いつ起こるか分からない災害に備えて、日頃から防災対策を行うことで、被害を最小限に抑える可能性が高まります。ぜひ、災害に強い「FPの家」で安全安心な暮らしを実現してみませんか？

